

# 文部科学省補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」

## 2021年度 連携型共同研究 成果報告書

研究課題名	図画工作科・美術科教材のWEBモデルの構築—美術館鑑賞教材をモデルとして—
研究代表者	渡邊 美香（大阪教育大学 表現活動教育系・准教授）
共同研究者	青木 宏子（大阪教育大学 表現活動教育系・非常勤講師） 高橋 晓生（積水ハウス株式会社 ESG 経営推進本部 美術館事業室・絹谷幸二 天空美術館 研究員）

### 研究成果

#### 1. 研究の目的、特色、重要性

本研究は、ウェブ教材の作成プロセスと汎用性を検証し、図画工作科・美術科授業での活用はもちろん、美術に携わってみたい人は誰でも共有できる教材のウェブモデル構築を目指したものである。これまで、美術・書道教育部門では、積水ハウス株式会社が芸術文化発信の拠点として開設した「絹谷幸二 天空美術館」と共同で、教員が美術館訪問の機会を活用し、事前・事後学習に取り組むことが出来る教材『アートとともだち』を開発した。本教材は、ワークシートをベースとした冊子と限定された枠内で見る事を促す「鑑賞ルーペ」からなる。使用実績を基に教材開発を進める中で、教材が利用者により広く紹介され、使用方法が利用者によってさまざまに広がることを期待する中、ウェブサイトの活用が一つの解決策になるのではないかと考えた。コロナ禍での学びのオンライン化、GIGAスクール構想への対応にも鑑み、『アートとともだち』の教材利用による学習目的や教材の意図を利用者自身が理解し、学級や授業、その他の活動で活用できるウェブページを着想した。パソコン、スマートフォンなど様々なデバイスで閲覧可能なレスポンシブルデザインや、最小限の文字情報で感覚的に必要な情報にたどり着くためのページデザイン等を検討しつつ、ページの設計過程、及びサイトを使用した授業を検証することで、ウェブモデルの構築を目指した。

#### 2. ウェブサイト制作と成果

ウェブサイトは、11月1日に公開した。<https://www.osaka-kyoiku.ac.jp/~artomo/> で見ることができる。当サイトは、TOPページ以下「アートとともにだちは」（コンセプトページ）、「教材のつかいかた」（教材紹介ページ）、「教材活用実績」（更新管理システムによるページ）、「もっと知りたい」（よくある質問ページ）、「ミュージアムのご紹介」（美術館情報のページ）、「お問い合わせ」（メールフォームページ）、「プライバシー・ポリシー」（個人情報取り扱い及びサイトポリシーに関するページ）の8ページ構成で、使用するデバイスの画面サイズに応じ表示を最適化するレスポンシブルデザインを取り入れた。各ページの冒頭にグローバルナビゲーションとして、プライバシー・ポリシー以外の7つのページアイコンリストがロゴマークとともに設置され、これらは、スマートフォン画面ではハンバーガーアイコンとして表示される。サイト上下の色線には、ロゴマークの珊瑚色に近いピンクを用い、フォントは丸ゴシック調で構成し、教材として堅苦しくならないよう優しい雰囲気を大切にした。

本サイトのメインとなる「教材のつかいかた」ページでは、18枚のワークシートと鑑賞ツールとなる「鑑賞ルーペ」を紹介・使用方法を解説した。これらワークシート等は、使用場面に応じて提供しており、使用場面を①美術館へ行く前に教師が行うこと、②美術館での楽しみ方、③美術館訪問後の活動、④発展的活動の4部に区分している。教師が学習内容に応じ各部へ直接ジャンプできるよう、教材のつかいかたメニューを配置しアンカー機能を設けた。ワークシートの紹介は、シート名、シートの説明、サムネイル画像、ダウンロード用教材（PDFデータ）、シートの使用見本からなる。各ワークシートに入力例を示すことで、ワークシートの利用方法への理解を促した。「鑑賞ルーペ」については、型紙をダウンロードすることができるようとした。「ミュージアムのご紹介」ページでは、教材の利用者が自分たちの学校の近くにある地域の美術館

を探すことができるよう近畿圏のミュージアムを調査し、近畿圏の 116 カ所のミュージアムの施設名・ウェブサイトリンク・住所・連絡先情報を掲載した。この際、美術館に限らず博物館や文化センターも含め子どもたちのアート鑑賞が可能な施設でウェブサイトを設けているところを紹介した。「教材活用実績」ページ以外は、静的ページであり、基本的には更新されないものとなっている。「教材活用実績」ページは、更新し、ウェブサイトを充実させていくページとなっており、教材がどのように活用されたかを検証すると同時に、教材の幅広い活用事例を掲載し、教材の新たな使用方法に挑戦してもらえるよう提案する場として機能させることを意図した。11月以降実践事例を収集し、ウェブサイトの使用を検証した。

以下収集した実践事例である。

- ・絹谷幸二天空美術館と連携し実施した大学生を対象とした鑑賞プログラム：大学の授業「造形表現 DIII」において、鑑賞ツールである「鑑賞ルーペ」の制作をおこなった。その際、ウェブサイトより型紙をダウンロードし、多種の木材を使用したオリジナルルーペを制作した。ダウンロードした型紙が実寸と異なるサイズに出力されたことから、修正しデータの差し替えを行った。実践記録 <https://www.osaka-kyoiku.ac.jp/~artomo/works/68/>
- ・11月 13・14・23 日実施アートラボ絹谷幸二天空美術館ワークショップ：実践記録 <https://www.osaka-kyoiku.ac.jp/~artomo/works/62/>
- ・兵庫県立高等学校で実施した「鑑賞ルーペ」ワークショップ：実践記録 <https://www.osaka-kyoiku.ac.jp/~artomo/works/76/>

本ウェブサイトは、3月に本学の記事に取り上げられ、その後、毎日新聞社@大学の記事として掲載された。

大阪教育大学ウェブサイト記事（2022.03.04）

子どもの美術館鑑賞を支援するウェブ教材「アートとともにだち」を開発

<https://osaka-kyoiku.ac.jp/university/kouhou/topics/archives.html?itemid=7476&dispmid=2951>

毎日新聞@大学大学倶楽部記事（2022/4/5）

子どもの美術館鑑賞を支援するウェブ教材「アートとともにだち」を開発

<https://mainichi.jp/univ/articles/20220405/org/00m/100/003000c>